

鶴見区区政会議 平成28年度第2回全体会

1 日時

平成28年8月8日（月） 19時00分～21時01分

2 場所

鶴見区役所 4階 403・404会議室

3 出席者

（委員）

久木議長、山下副議長、植田委員、大原委員、木村委員、木本委員、佐々木委員、柴田委員、宗宮委員、田中（潔）委員、田中（泰）委員、西岡委員、西田委員、西村委員、前川委員、正脇委員、松原委員、真鍋委員、宮田委員

（区役所）

河村区長、萩副区長、野村総務課長、西野区政企画担当課長、奥本魅力創造課長、阪東広報戦略担当課長、小川地域活動支援課長、田中こども・教育担当課長、中村窓口サービス課長、嶋原保健福祉課長、貴志生活支援担当課長、秋山地域活動支援課長代理、河本保健福祉課担当係長、金森保健副主幹兼担当係長

4 議題

1. 平成27年度鶴見区の実施計画の振り返りについて

5 議事

開会 19時00分

○西野区政企画担当課長 お待たせいたしました。定刻になりましたので、鶴見区
区政会議第2回全体会を開会させていただきます。

私、司会を務めさせていただきます区政企画担当課長の西野でございます。どうぞ
よろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、河村区長からごあいさつ申し上げます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。

今日は、暑い中、また遅い時間にお集まりいただきましてありがとうございます。

今日の区政会議は、前回、各部会で平成２７年度の取組みについていろいろとご議論をいただきましたけれども、今日はそれを報告いただくという形で、また全体で討議していきたいと思っております。

また、ご案内にもありますとおり、今後の鶴見区の防災活動の一助とするためにも、５月に熊本に派遣されました職員から、現地での状況等について報告をさせていただきたいと思っております。

ということで、また有意義なご議論をお願いいたします。それでは最後までよろしくをお願いします。

○西野区政企画担当課長

まず、冒頭にお知らせでございます。長年、鶴見区区政会議委員を務めていただきました、鶴見区老人クラブ連合会の佐藤様におかれましては、この７月１７日にご逝去されました。鶴見区区政会議の発足当初から委員を務められ、各方面におきまして、鶴見区政に多大なご協力を賜りましたこと、この場をおかりしてお礼を申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

それでは続きまして、定足数の確認をさせていただきます。本日の会議には、委員定数２６名中１７名の委員のご出席をいただいておりますので、定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

本日は、市会議員の先生方にもご出席いただいておりますので、ご紹介させていただきます。

土岐議員でございます。

○土岐市会議員 どうも皆様こんばんは。よろしくお願いいたします。

○西野区政企画担当課長 大橋議員でございます。

○大橋市会議員 こんばんは。よろしくお願いします。

○西野区政企画担当課長 それではこれより議事進行を久木議長にお願いいたします。

議長、よろしくお願いいたします。

○久木議長 皆さん、改めましてこんばんは。

大変暑い毎日が続いております。岐阜の多治見市では39.8度、もう40度近い高温になっております。

そうした中、多数の皆さんにおいでいただき、本当にありがとうございます。

そうは申しても、貴重な時間でございます。真摯な意見を真剣に進めてまいりたいと考えております。ぜひ審議のほうにご協力をいただきたいと思います。

先ほど西野課長から報告がありました、佐藤会長には本当にこの区政会議もお世話になっております。私ども一同も心からご冥福をお祈りしたいと思います。

それでは早速ですが、議題1 平成27年鶴見区の実施計画の振り返りということで、議論を進めてまいりたいと思います。

平成27年度の運営方針への自己評価に関しまして、先日、部会でそれぞれ担当する課題について、多くの意見が出されたと聞いております。

本日は、各部会から部会で出た意見についてご報告をしてもらい、またその後、委員の皆さんから直接、ご自分のところの部会以外の意見等もございましたら、意見交換をしたいな思っております。

それでは早速ですが、つる魅力向上部会からお願いいたします。

○奥本魅力創造課長 魅力創造課長の奥本でございます。

つる魅力向上部会について、簡単に説明させていただきます。

まず、経営課題の1 魅力あふれるまちづくりにつきましては、幅広い世代が参加しやすく、区の魅力を感じることができる取組みを進め、つるみワールドフェスタや楽園会議のイベント、光の花枝敷2015やトワイライトコンサートなどの開催状況

を、また環境をキーワードにした取り組みでは、鶴見緑地でのホタルの幼虫放流や種花活動などの実施状況を、経営課題6 区役所力の強化につきましては、区民に信頼される職員の育成として実施した接遇、CS研修やコンプライアンスの向上に係る取り組みなどを、また積極的な情報発信として、広報紙やホームページ、フェイスブックを活用した取り組みなどをそれぞれ委員の皆様に説明をし、区役所としての各評価結果とあわせて委員からご意見をいただきました。

当日の議論につきましては大原副部会長からご報告をいただきます。

それでは、横長の資料で「第1回部会における主な意見（つる魅力向上部会）」、右肩に資料3と書いている資料に基づきまして、説明をいただきます。

○久木議長 大原委員、お願いします。

○大原委員 座ったままですみません、失礼いたします。

副部会長の大原です。よろしくお願いします。

まず、項目1のイベント実施とその広報についての中に関連しての意見と質問について、それと区役所のほうからいただいたご対応について共有させていただきます。

まず、意見としては、盛りだくさんのすばらしいイベントが実施されていると。委員の中では、いろんなイベントを本当にたくさん数多くやっていて、中身も充実しているという意味で、いい評価という意味での意見をいただきました。

その中での区役所のご返事としては、イベントの実施に際しては、区民ボランティアによる企画運営や民間イベント会社のノウハウを生かしたプロポーザル方式の業務委託、また地域連携による出店など、より多くの参加者、来場者に各イベントを楽しんでいただけるような企画運営に努めているというお返事をちょうだいいたしました。

また、ご質問になるんですけれども、このようなイベント開催にあたり、内容や広報に関して、区としてどのような検討をして取り組んでいるのかという質問が挙がりまして、その中でお返事としては、報道発表など報道機関との連携、また区の広報紙、ホームページ、各地域へのお知らせ、また地下鉄や駅構内での音声案内やポスター掲

示など、できる限りの取組みを行った結果、平成２７年度は各イベントにおいておおむね想定以上の参加者、来場者があったというご報告をいただいております。

そして、今後も魅力的なイベントを企画開催するとともに、より多くの参加者が得られるよう、さまざまな広報媒体を活用して情報や魅力の発信に努めていくというお返事をいただきました。

次に、高齢者等のイベント参加促進策についてで、鶴見緑地で開催される区のイベントに参加しやすいよう、バスを運行できないかというお話がありました。

というのは、背景として、光の花栈敷など夜に行っているものがあるので、高齢者の方とかは、やっぱり暗い中で鶴見緑地のほうにお越しいただくのも、なかなか参加するのも骨になるので、バス等が出ればありがたいんじゃないかというお話がありまして、区の返事なんですけれども、イベント実施に際して、区内各所の子どもからお年寄りまで、より多くの区民の皆さんがイベントに参加、来場いただき楽しんでもらえるよう、イベントバスの試行的な運行等について検討するとお返事いただきました。

この、区としてイベントバスの試行的な運行等について検討されるということなんですけれども、今年９月に区民まつりがあるんですけれども、その中でバスの運行の試行実施に向けて、現在、区のほうで手続を進められているということなので、この場をもしお借りしてご報告いただけるようでしたら、協議をお願いしたいんですけれども、いかがでしょうか。

○西野区政企画担当課長 後でまとめて。

○大原委員 また後でやりますか。はい。また後でお願いします。

引き続き、経営課題１－１－２で、子どもたちの種花活動の取組みについてですけれども、意見として、地域や公園等で、地域の皆さん、子どもたちが一緒になって種花活動で育てた花を植えて育てる機会を拡充してはどうかという意見がありました。

お答えですけれども、地域の子どもたちが種花活動ボランティアとして交流しながら、花を植える取組みが広がるよう、ボランティアの方々のご意見をお聞きし、植込

み場所について、これ管轄の問題があるようですけれども、建設局と調整を行いたいというお返事をいただきました。

最後に、経営課題 6－1 ですけれども、区役所力の強化ということで、個人情報保護及びコンプライアンス等の向上に係る取組みということで、個人情報の流出事故についてのお話です。これ個人情報流出事故が昨年度、確か 8 件ほどあったと思うんですが、ここですけれども、達成は難しくても、目標値は高く、あえて言うのであれば 0 という取組み等をあえて高く設定しておく必要があるのではないかという意見がありました。

お答えとして、個人情報流出事故はあってはならないものでもあり、今後も事故防止のために定めている重要管理ポイントの遵守に努め、発生件数の減少を極力図っていただくというお答えをいただきました。

つる魅力向上部会に関しては以上です。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

それでは、引き続いて地域コミュニティ・保健福祉部会ですね。嶋原課長、お願いします。

○嶋原保健福祉課長 保健福祉課長の嶋原です。よろしくお願いします。

地域コミュニティ・保健福祉部会につきましては、経営課題 2 の地域コミュニティの活性化と経営課題 5 の健康で安心して暮らせるまちを所管しています。

当日は、経営課題 2 につきましては、地域活動の活性化と自律的な地域運営の支援、経営課題 5 におきましては、認知症、障がい等への理解の啓発、それから高齢者虐待対応力の向上、有償ボランティア制度の定着、要援護者等の見守り支援、健康増進意識の向上につきまして、それぞれの具体的な取組みに関しましてご意見をいただきました。

当日の主な意見につきましては、久木部会長のほうからご報告をお願いします。

○久木議長 それでは、引き続いて部会報告をさせていただきます。

地域コミュニティ・保健福祉部会でもさまざまな意見が出ておりました。

その中で主な意見をご紹介しますとともに、それに対する区役所の対応がどういう対応をされるのかということを簡単にかいつまんでご報告いたします。

皆さんの資料の3ページ、4ページがそれにあたりますので、ちょっと見ていただきまして、まずイベント・講演会等の区事業実施について、講演会等の開始時間に合わせて、先ほども出ていましたけど、バスとか、そうしたものの用意ができないのかという意見が出ておりました。

また、アンケートを実施して、もうちょっとアンケートをわかりやすくする、可視化するという意味で、地域別項目などを入れて、それを集計することによってデータ化の実施ができないかという意見もございました。

それに関しては、区の対応として、事業ごとのバスの運行は大変難しい点があるだろうということで、ただイベントの開始時間については、参加しやすいように今後検討をしていきますと。

また、アンケートについては、地域項目を追加していく、データ化しやすいようなアンケートをもうちょっと工夫するということが対応が示されております。

引き続いて項目6番、地域有償ボランティア制度の定着という点についてであります。これについてはなかなか継続してやっていくには現状では無理があるんじゃないかという意見もございました。

また、自立運営にちょっと時間がかかり過ぎているんじゃないかということでもございました。

地域単位で、こうした事業を展開するのが本来の考えではないのかという意見もございました。

また、募集を含めて、周知についての意見もありまして、それに関して区の対応としては、自立運営というものは非常に難しい状況にある。しかし、介護保険制度等も変わる中、事業を継続していく必要はそこにやっぱり大きなポイントがあるんだろう

ということで、事業は今後も継続をしていく。当面は現在の制度を運営するという
ことで進めますけど、各地域でこの支援制度を展開することは、やっぱりその地域を運
営していく上で、より細かい対応ができるので、そうしたことを今後取り入れたい。
また、事業の進捗や状況を検証しつつ、制度の運営を検討するというところで回答がご
ざいました。

あとは、周知している広報紙等の問題も実はありまして、この有償ボランティア制
度をもうちょっと周知するテクニックって言いますかね、そうしたものも必要ではな
いかということで、事業名称等が入ったウェア、ポロシャツ等のそういうウェアをつ
くるとか、目に見える周知を今後工夫していきたいというような回答でございます。

要援護者等の見守り支援について、4 ページになりますが、これについては、特に
2050 年問題もございます。孤立世帯が飛躍的に増大していく中で、こういう孤立
していく人たちをどうやってフォローしていくのかということが大きな問題になるん
だろうということで、それに関しての区の対応はどうですかという意見がございまし
た。孤立世帯等については必要に応じて見守り支援ネットワークカーなどで対処してい
く。今後も区役所と区社協が連携して、地域での見守り、あとはこうした事業に地域
をどうやって取り込んでいくかっていうこともひっくるめて、支援を行っていく必要
があるんだろうということで回答をいただいております。

健康づくりの事業についてでございますが、地域が自分たちでやっていくための支
援づくりは非常に大切だろうということで、地域によっては、やりたくても地域の中
自身が高齢化していくという問題もあるんやでという意見もございまして、それに関
して区の対応としては、地域別アンケートをもうちょっと集計して、細かい点が見れ
るように可視化していくことによって、地域課題を整理し、あるいは地域の意見を聞
きながら支援を実施していくという対応が示されております。

最後の地域運営の支援についてであります。これも先ほど申しました地域別アン
ケートを集計していく。地域別にそれぞれ特色もございまして、地域別にプランを

立てていく必要がある。あと、地域によっては、なかなか可視化できていない、透明化できてない地域もあるんだろうということで、あくまでも区役所の補助金等を使っている、あるいは町会費を使っているということもあるんで、やはり区の対応としては、地域ごとのいろいろな結果を見ながらであります、会計の透明化の確保等は、今後もうちょっとわかりやすく見えるように、あるいはホームページでもはっきりわかるような可視化をしていく必要があるという対応が示されております。

地域コミュニティ・保健福祉部会での議論は以上です。

それでは引き続いて、こども教育部会のほうお願いいたします。

○田中こども・教育担当課長 こども・教育担当課長の田中でございます。

こども教育部会につきましては、経営課題の3のところございまして、大きく1つは、安心して子育てできる環境づくりということで、子育てに関する支援でありますとか児童虐待防止に関する取組み等について議論がなされました。

もう1点は、子ども・青少年の健全育成ということで、高校軽音でありますとか青少年カーニバル等のイベントにつきまして、あるいは小学生、中学生の英語を使った取組みにつきましの議論、それからもう1点は、青少年「夢・未来」事業ということで、出前授業につきましの案件につきまして議論がされました。

当日の議論につきましては、西岡部会長のほうからご報告をさせていただきます。

○西岡委員 それでは、こども教育部会から主な意見ということで発表させていただきます。

項目の目標値と達成状況についてということですが、主な意見といたしまして、アウトカムの目標値より平成27年度の達成値のほうが上回っている、区としてどういった点が功を奏しているかということが質問という形で意見がありました。

それに対しまして、事業の内容については少しでも満足度が上がるように取り組んできたこと、広報についても、地域の方にも協力をいただきながら取り組んできたことが浸透してきた結果と考えている。引き続きアンケート結果も参考に、より多くの

方に満足をいただける内容となるように今後取り組んでいくということでした。

次に、若者の意見聴取についてということで、主な意見の中では、中学生・高校生から鶴見区についての意見を伺える場を設けてはどうか、今の子どもたちは結構はつきりと考えて意見を言うというような形があると思うんで、子どもたちの生の声も聞いてはどうかというようなことだったと思うんですが、それに対しましては、中学生・高校生の意見について、いろいろな機会をとらえて聞いているが、ほかの機会についても場の設定に向けて検討する。これに関しては、中学生・高校生になると、受験とかいろんな問題もあるということなんですが、そのあたりも学校との連絡をとり合って、日程を設定してはどうかというような形だったと思います。

そして、成人の日の記念のつどいで、区政会議委員の席を設け、二十歳の誓いのスピーチを聞ける機会を設けてはどうかということでした。

これに対しましては、成人の日の記念のつどいについて、区政会議委員の参加方法も含めて検討するという事で、その中で皆さん入るといのはなかなか人数的なこと、また場所的なことがあると思いますが、子どもたちの二十歳の誓いを聞いたことのない方もいらっしゃると思いますので、そういう機会を設けていろんな方に聞いてもらいたいというような考え方ではなかったかなと思います。

そして、子どもや保護者への周知についてということで、イベント告知はもっと学校を巻き込んで周知をしてはどうかということです。学校で配付するチラシについては、わかりやすく、読みやすく、子どもたちとか保護者の方が手に取ってもらえるように、紙の色などを変えて目立つものなどにすれば、もっと見てもらうための工夫になっていくんじゃないかというのが主な意見でした。

その対応といたしましては、現在も小・中学校を通じた周知は行っているが、さらに連携を図っていく。また、チラシの色を目立つようにするなど、手に取ってもらいやすいような工夫に変えていくというような対応だったと思っております。

以上が主なこども教育部会からの取組みの意見と対応でございました。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

それでは引き続きまして、防犯・防災部会、秋山課長代理をお願いします。

○秋山地域活動支援課長代理 地域活動支援課長代理の秋山です。よろしくお願いいたします。

防犯・防災部会でございますが、経営課題4 安全なまちづくりを所管しております。

大きく防犯、交通安全、防災の3つの事業につきまして、街頭犯罪、交通事故の少ないまちづくり、災害に強いまちづくりについて実施いたしましたさまざまな取組みに関しまして、ご意見をいただきました。

当日の主な意見につきましては、宗宮部会長よりご報告をお願いいたします。

○宗宮委員 宗宮です。部会の報告をさせていただきます。

安心安全、防犯・防災部会ということで、なかなか取組みに対する結果というのがすぐ可視化できるわけでもなく、取組みがどの程度達成していけるのかというのが非常にわかりにくい部会なんですけれども、非常に活発な議論がされまして、質問もいっぱい出て、秋山課長代理からいっぱい話をいただくというような活発な場でした。

全体として、待ちじゃなくて、積極的に働きかけていくという取組みが鶴見区において展開されているというところで、評価を全体で共有しながら具体の項目について幾つか意見や質問が出たということで、とりわけ区内の一斉防犯活動について、第2金曜日に区内一斉ということで行っているのが一定定着してるんですけれども、毎回同じメンバーでマンネリ化ということで、せっかくいい取組みなのにマンネリ化というふうなことになるたら困るよねという話があり、各地域の防犯推進委員の会議を開催する、意見交換を行って、こういった定着してきた取組みをマンネリというふうな形にはならないように、さらに工夫をしていくというようなやりとりでした。

それから、防犯事業のアンケートについて、これについても今、行っている区のアンケートのどこがあかんのやという話ではないんですけれども、アンケートの取り方

として、区が行っている事業に対する評価というようなアンケートやなくて、本当に必要な安心・安全、あるいはやろうとしてる住民の、区民のニーズに合った内容を掘り出せていくようなアンケートを取らなあきませんよねという話が出ました。くぎを刺したということなのかも知れませんが、さらに工夫をしながら具体的な取組みに反映していけるようなアンケートにしていくということでやりとりがありました。

また、地域の防災訓練に中学生の参加をということで、実際、高校の参加というところもあるんですが、いざとなったら現に生活の空間にいてる中学生というのが一番戦力になるというのが今までの災害地域からも報告されていますし、そののところがもうちょっと重点をあてていったらどうなのかという意見が出ました。

それに対して、既に取り組んでいる地域もあるということで、さらに区内全体に各地域が働きかけると同時に、区役所のほうからも働きかけをしていくというような話でした。

それから、地域防災力の向上について、これまでの東日本大震災、熊本地震などの情報を整理し、どういった備蓄が有効なのか。備蓄をしてるけど、実際には役に立ってへんかったとか、もっとこんな備蓄をしたらいいという先進事例というのは多分、行かれたら持ってるはずなので、ぜひそういった報告も整理してもらいたいということで、本日予定されています派遣された職員の報告を、まず区政会議で共有することなんですけれども、兵庫県広域防災センターや他県の取組み、大阪市の熊本への職員派遣などについての情報提供を行っていくというお話がありました。

交通安全についても、自転車のマナーアップとか、7月から条例が施行されたということもあり、マナーアップキャンペーンをさらに強化していかなあかんとか、スクエアドストレート学習が非常に有効であるということで、年1回やったものが2回になってるということで、具体的にどこのプロダクションに申し込んだらこんなことができるんかというような、そういう話まで含めて質問が及ぶということで、非常に熱心な討議がされたというような状態です。

以上です。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

○西野区政企画担当課長 引き続きまして、委員の皆様方によります評価についてご報告いたします。

前回の部会におきまして、委員の皆様にご直接評価していただきますため、委員評価シートの作成をお願いしておりました。ご協力いただきましてありがとうございました。

本日は、資料といたしまして、4－1 委員評価シート、委員評価を一覧でまとめたものです。同じく委員評価シートの自由意見をまとめたもの。それと4－2としまして、委員評価結果グラフ。この3種類をお配りしておりますけれども、これらの結果につきまして、各担当からご報告申し上げます。

なお、結果のグラフにつきましては、本日スクリーンのほうにも映しますので、どうぞご参照ください。

○奥本魅力創造課長 魅力創造課長の奥本でございます。

つる魅力向上部会では、経営課題の1と6を所管しております。

まず、経営課題の1ですけれども、魅力あふれるまちづくりに関しましては、地域資源を活用した魅力再発見の取組み、また環境等をキーワードにした取組みの両方で、全般的によい評価をいただきました。

その中で、イベント開催に関しましては、広報や周知がまだ足りないのではないか、また、地域の各団体との協働や連携が必要ではないかなどのご意見をいただいております。

区におきましても今後、これまで以上に地域の各団体や企業、区民ボランティアの方々と連携・協働をして、イベントの実施、広報に取り組んでまいりたいと考えております。

また、種花活動に関しましては、ボランティアの方に負担がかかり過ぎているので

はないかとのご意見をいただいております。

この種花活動に関しましては、ボランティアの方々の負担軽減と新たなボランティアの参加を促すために、これまでの区内 1 拠点に加え、今年度、鶴見緑地内に新たな拠点の整備を進めているところでございます。

続きまして、経営課題の 6 でございます。区役所力の強化に関しましては、区役所窓口サービスでの評価については、平成 27 年度に星 1 つを獲得することができました。

委員からは、窓口サービスへの合理的な評価もありましたが、個々の職員の印象が区役所全体の評価を左右するというご意見もありました。

平成 28 年におきましては、引き続きプロジェクトチームによる業務改善を進めるとともに、接遇に重点を置いた研修を職員が受講し、各課での取組みを進めているところでございます。

また、個人情報漏えい事故が減っておらず、発生ゼロを目標にすべきというご意見をいただいております。引き続きコンプライアンスの強化に向け、取組みを進めてまいります。

区広報紙、広報つるみにつきましては、全戸配布を含め、全般的によい評価をいただいておりますが、今後も紙面の充実を図るとともに、広報ツールとしての有効性を高めるべく取り組んでまいります。

フェイスブックにつきましては、告知が少ない、ポスターの画像の使用等、一目で理解できる内容の発信が必要ではないかとのご意見をいただいております。そのようなご意見も踏まえまして改善を図ってまいります。

区内小学生に配布をしております「つるみっ子だより」につきましては、もう少し子どもの視点での記事が必要ではないかとの意見をいただいておりますので、掲載記事の内容について、いま一度精査をしてまいります。

つる魅力向上部会の報告は以上でございます。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

○嶋原保健福祉課長 続きまして地域コミュニティ・保健福祉部会です。

経営課題2 地域コミュニティの活性化につきましては、おおむね有効というよい評価をいただいたと考えております。

区内各地域活動協議会におかれましては、安全安心、地域福祉、コミュニティ活動等、さまざまな活動に取り組んでいただいております。ご意見の中にも、お世話いただく方へのねぎらいの言葉をいただいております。本当に日々の活動に対し、感謝申し上げます。

なお、情報発信に関して、自立のためにも地域からの発信が大切、また広報事業に関して地域は苦勞している、もっと行政からの積極的な支援をとというようなご意見をいただきました。よって、引き続き地域からの情報発信に対する支援に取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、経営課題5 健康で安心して暮らせるまちにつきましてです。

こちらのほうも、各項目を通しておおむね有効的であるということで、よい評価をいただいたと考えております。

また、この結果や、評価の自由意見の中でも継続が結果となるというようなご意見をいただいていることから、引き続き事業には取り組んでまいりたいと考えております。

ただし、各事業を実施するにあたっては、区政会議の主な意見の中でもありましたように、アンケートに地域項目を追加し、データ化を図り、課題を整理するなど、資料の検証も図りつつ、よりよい事業実施、それから地域との連携、支援について検討してまいりたいと考えております。

また、事業に関する周知につきましても、工夫して取り組んでまいりたいと考えております。よろしくお願いします。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

○田中こども・教育担当課長 次に、経営課題の3 次世代育成に向けたまちづくりのところでございます。

1つは、安心して子育てできる環境づくりということで、これにつきましてはおおむねよい評価をいただいたと考えております。

ただ、児童虐待の相談件数が増えている理由でありますとか、児童虐待に関して地域との連携を深める必要があるとのご意見をいただいております。

今後、民生委員や主任児童委員も含め、地域の方を対象に、こういったケースについて見守りや通報が必要かということ、皆さんにお伝えしていけるような研修を実施してまいりたいと考えております。

2つ目ですけれども、子ども・青少年の健全育成であります。

これも10項目の事業につきまして、おおむねよい評価を頂戴しておりますが、特に青少年がふだんの成果を発表する場のイベントにつきましては、比較的よい評価をいただいております。それから、青少年の活動の発表の場としても定着もし、また多くの方にご参加いただいているということに一定の評価をいただいたものと考えております。

一方、英語のスピーチコンテスト、あるいは小学生の異文化交流、出前講座など、規模の小さいものにつきましては、評価の厳しい委員も若干おられました。このイベントがなかなか目にとまりにくいとか、参加できる子どもも限られていたという課題もございまして、自由意見も同時に拝見いたしますと、例えば英語の事業につきましては、得意でない子どもたちにもチャンスの拡大をということがありました。次年度に向けての課題であると考えております。

それから、環境ととのえ隊につきましては回数の増を望む声もいただいております。これにつきましては、夜間巡視という活動自体は年間を通じまして、毎月1回、12校下すべてにおきまして、青少年指導委員や福祉委員あるいはPTAの方々も入って、指導ルームという形で地域の実情に応じて夜間の巡視を行っていただいているところ

であります、一方、長い夏休みには、夜間に鶴見緑地で遊ぶ青少年が増加するということから、8月に団体や警察の協力を得て、別途独自で行っているところです。

ただ、回数は確かに1回でございまして、これを増やすことにつきましては、まず各団体や警察あるいは緑地を管理しているパークセンターとも話し合いが必要でありまして、今後の課題としてまいりたいと考えております。

当部会からは以上でございます。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

それでは、経営課題4 安全なまちづくり。

○秋山地域活動支援課長代理 経営課題4 安全なまちづくりでございますが、防犯、交通安全、防災について、3つの事業、おおむね有効との評価をいただいております。ありがとうございます。

いただきましたご意見についてですが、特に防犯対策、交通安全対策事業につきましては、このように継続して実施をしていることが大切であるとのご意見を多くいただいております。

また、交通安全対策の自転車のマナーアップの取組みや放置自転車対策などは、引き続き地域の皆さんと協働、連携をして実施していったほしいというご意見をいただいております。

ただ、一方、継続事業という中で、マンネリ化になってはいけないというご意見もいただいておりますので、区政会議でのご意見ですとか、区民アンケートの工夫などをいたしまして、より効果が上がるよう事業の工夫、検討をしてまいりたいと思っております。

また、防犯対策事業の中では、防犯カメラの設置についてはより効果的な設置を、ツーロックキャンペーンにつきましては費用対効果の検証をとのご意見をいただいております。特に防犯カメラにつきましては、平成27年度までのカメラ設置箇所や街頭犯罪の発生状況マップを各地域ごとに作成、情報提供を行うなど、より効果のある

設置を進めているところでございます。

また、災害に強いまちづくりにつきましては、より多くの人に各地域での訓練など参加をしてもらう。区や地域が行う防災、減災の取組みについて、より知っていただく工夫をとの意見がありました。事業を実施するだけではなく、今後は実施後の報告など、さまざまな形で情報発信を図ってまいりたいと思います。

以上です。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

それでは、これまで一連について各部会報告をさせていただきました。

また、皆さんからいただいた評価、あと検証をやっていたいただいたコメントをご紹介させていただきました。

これから約20分ほどであります、この20分の間、意見交換をさせていただきたいなというふうに思います。自分の部会以外で、私はこの部会も入りたかったんですけど、意見言う機会あれへんねんという人は、もうぜひ意見を述べていただいて、有意義にこの20分使わせていただきたいなというふうに思ってますので、それでは意見交換会、今から始めさせていただきます。

どうぞ。宗宮委員。

○宗宮委員 部会の報告のほうにもあったんですけども、イベントバスの話題が載っています。

福祉バスが廃止になって、榎本、今津地域から、この横堤のほうになかなか来れないというふうなこととか、区を中心とした緑地での事業ということになれば、やっぱりそういったことも検討してもらいたいという要望というのは、前から出てる話やろというふうに思いますので、なかなか厳しいというお話も聞いておりますけれども、ちょっと検討をされてる内容あれば教えてほしいということと、先月やったですか、先々月やったですか、大阪バスという会社が八尾の市内、一部大阪市内を通るバス、新しいバス経路を運営・運行しだしてるというふうなことも、ちょっとインターネッ

トを見てたらありまして、結構バスにかかわっての規制というのが緩くなってるというふうなこともちょっと聞いたんですけども、そういう内容について、もし情報があれば教えていただきたいなというふうに思います。

○久木議長 これについて、奥本課長。

○奥本魅力創造課長 魅力創造課長、奥本でございます。

大阪バスの件はちょっとわかってなくて、イベントバスについてお話をさせていただきたいと思うんですけども、実際に、鶴見緑地の会場から遠い地域の方々、今津地域とか榎本地域、また茨田地域と茨田東の方々ですね、緑地まで行きたくでも行けない方々がどれだけおられるのかということ把握するために、イベント参加者が多い区民まつりでイベントバスの試験運行を実施させていただくことで、現在、バスの事業者を募集しているところでございます。大体2つのルート、榎本、今津地域と緑地、そして茨田、茨田東地域と緑地の2つのルートで現在、バス事業者を募集しております。

以上でございます。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

奥本課長、1回試験的にやってみようっていうことと、もう1つは、その後、費用対効果を考えて、福祉でないんで、費用対効果を当然考えて、今後やっていくかやっっていかなかは、その結果によって判断するということですね。

○奥本魅力創造課長 どれだけ利用者ニーズがあるかとか、利用者の数とか、年齢層とか、これまで緑地のイベントに来られなかった方々がどれだけ利用されるか、試験運行ということでさせていただきたいと思っております。

○久木議長 はい。宗宮委員、よろしいですか。

○宗宮委員 はい、ありがとうございます。

○久木議長 はい。

ほか、何かございますか。

西村委員、何かございませんか。若い人から見た視点で。

○西村委員 防犯・防災部会のことになるんですけども、特に私たちぐらいの若い世代に多いと思うんですけども、信号無視の問題がかなり、私が榎本に来だしてから、この区でいろいろと見てきて結構多いなと思いました。

それで、信号無視に関して、信号無視がいけないことだっていう実感とかっていうのが若い世代に特に欠けてるのかなと思うので、交通事故を減らすのに、信号無視の問題は必ずついて回ると思うので、それをどういうふうに啓発していくかっていうところは、ちょっとお願いしたり、私たちも一緒に考えていかないといけないことかなっていうふうに思います。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

これ、地域によっては、防犯大会とか交通安全大会とかやって、啓発活動をやっているんですけど、それについてまだ参加とかはないですか。

事故をね、1つでも減らすだけの効果は非常に大きい効果があると思うので、ぜひ、取り組んでいただきたい。各地域で取り組んでいただければなというふうに思います。

木本委員、何かございませんか。ほかの部会について。よろしいですか。

大原委員、どうぞ。

○大原委員 せっかくなんで、ちょっとお話をさせていただきたいんですが、防犯カメラの設置に関してなんですけど、私、よく仕事の都合で、横堤から帰ったり徳庵から帰ったりすることが多いんですが、徳庵駅のほうから帰ると、商店街を抜けて家のほうに向かうんですけど、ダミーカメラがすごく多いと、すごく。これはこれでいいなというふうに思っていてまして、多分何個かに1つは、多分本物のカメラがあり、ダミーのカメラと言うか、見てるぞというような表示の物がありまして、これは抑止には効果的だなと思うんですよね。

今回の意見のところにも書かせていただいたんですけども、こういったダミーカメラも含めて検討いただければありがたいなと思います。要は、本当のカメラは結構い

いお値段すると思うんですけども、ダミーであれば、それなりに安く、取りつけ費用がかかるのは一緒かもしれないんですけども、そこをご検討いただければいい方法の1つではないかなと思いますので、前向きに考えていただきたいというのが1つです。

あと、もう1点なんですけれども、これはちょっとお伺いしたいと言うか、教えてくださいなんですけれども、要援護者等の見守り支援についてなんですけれども、鶴見のほうは若い方が多いということで、要援護者の方が比率的に少ないかもわからないんですが、比率的に多い区っていうのがあると思うんですけども、例えば大正区とか、勝手にイメージで言ってるんですけど、ひょっとしたら平野区のほうとか多いのかなと思うんですが、そういったところの見守り支援について、何か吸い取るところと言うか参考になるところがあって、それを含めて鶴見区が動いてるとかというのがあれば、要はほかの区を参考にして何か検討してることがあるんだったら、もうぜひそういうような方向でお願いできればなと思うんですけどね。

というのは、鶴見区って若者が多いので、そのあたりの要援護者の高齢者の方への取組みが、ちょっとその分スピーディーでないと言うか、遅くなってはよくないなと。そういうことはきつくないと思うんですけども、積極的にそういったところでも含めていただければなというお願いという意味です。

以上です。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

これについては嶋原課長かな。

○嶋原保健福祉課長 要援護者の関係ですけども、もちろん鶴見自体は、若い世代の方が多いというふうに考えておりますけども、やはりその中でも高齢者は年々増えてくというふうに考えておりますので、取組みとしては続けていくと言いますか、これからも進めていかないといけないと考えております。

また、他区の状況等につきましても、いろいろご意見を聞かせてもらったりとか、

情報を共有していきたいと思いますし、取組みをされてるようなところにつきまして、またお話を聞かせてもらって、取り入れる部分があれば、また取り入れさせてもらうことも考えたいと思います。

○久木議長 はい。

では、もう1点、ダミーのカメラですね、これは秋山代理。

○秋山地域活動支援課長代理 ダミーのカメラなんですけれども、そういうご意見はこれまでもいただいてまして、実際検討なんかもしておったりもするんですけれども、まず今現在で言いますと、地域からのご要望も含めまして実際のカメラの設置というご希望が高いところではあります。

ただ、今後で行きますと、そういうダミーですとか、あと以前ちょっと取組みもしてましたセンサーライトとか、いろんな防犯にかかわって抑止力のある取組みがあるかなと思っておりますので、また検討をしてまいりたいと思います。

○久木議長 大原委員、よろしいですか。

○大原委員 ありがとうございます。

○久木議長 はい。

それでは、ほかご意見ございませんか。

山下副議長、どうぞ。

○山下副議長 部会から挙がってくる主な意見の中で、ちょっと見てると、やっぱり地域別とか地域ごとにと、地域単位でとか、そういう地域ということがたくさん出てきてるんですよ。これ1つキーワードになるかなと思うんですけれども、今まで区政会議も5年、6年ぐらいですか、やっていただいて、我々の意見を拾っていただいて、区がいろいろ対応していただいたと。全体像としていろいろ対応していただいて、それに解決していただいた中で、今度は地域ごと、それぞれのエリアというところでの問題点、あるいはその掘り起こしということが必要になってきているのかなと思います。

ですから、今後として我々が望むのは、細かいマネジメントって言うんですかね、地域ごとに対するマネジメントというのをちょっと頑張ってもらいたければありがたいかなと思います。

それとあと、区役所力の強化というところでいろいろ意見あったんですけども、実際、窓口に関しては委託されてたかと思うんです。実際の職員の方って委託先の方ですよ、違いましたっけ、住民票等々の交付っていうのは。そうですね。

○久木議長 委託、委託。

○山下副議長 ですから正直、地域に対する思い入れとかというのが委託はあまりないのかなって思うんですよ。やっぱり鶴見区役所の職員の方というのは、区に対する思い入れというのはやっぱりね、かなりあると思うし、我々も十分感じてるんですけども、ちょっと窓口にいらしやる方が、そう悪く言うつもりはないですけども、委託先の職員の方が果たしてどれだけのつもりを持って対応していただいているかなっていうところが評価につながってくるんじゃないかなと。やっぱりそういう委託先の方に関しては、もうちょっと区の盆踊りに参加していただくとか、区民まつりに来ていただくとか、そういう投げかけとかいうことを。そういうことはちょっと皆さん難しい部分はたくさんあるかと思うんですけども、そういう掘り下げ方と言うか、取組みと言うのも1つ、難しい部分はたくさんあるかと思うんですけども、効果があるのかなとは思ったりしました。

以上です。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

これについては、野村課長。

○野村総務課長 区役所の窓口サービスでございますけども、区の職員で直接対応しているところと一部委託事業者で運営しているところがございます。

先ほどご説明申し上げましたように、直接職員の窓口につきましては、接遇研修等で接遇能力の向上を図っているところであります。

委託事業者につきましては、なかなか職員には直接指示できないところがございますけれども、事業者とも協議いたしまして、先ほどおっしゃったような点をカバーできるようにサービスの向上を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

それでは、ほかございませんか。

宮田委員、何かございませんか。

○宮田委員 そうしましたらちょっと防災のことで意見を言わせていただいてよろしいでしょうか。やはり12地域でいろんな防災に取り組まれてると思うんです。

今、山下副議長が言われましたように、地域によって防災の取組み方は違うと思うんですね。私も地域の防災には参加はしていないのですが、やはり同じ人が参加するのではなく、幅広く参加できるような防災を少し提案していただければ、もっと地域性が出ていろんな防災がつながって、鶴見区の防災、それこそ12地域、ここではこういう防災、ここではこういう防災、それがつながって、今度は鶴見区全体の防災のめざす方向ですよ、それが出るのではないかなと今ずっとこのところ思っている次第です。先ほども言いましたように、やはりなかなか防災って一言で言うと、全部が防災にかかわってくると思っておりますので、先ほどの備蓄の件もそうだったと思うんですけれども、何が一番必要で、まずは何をしないといけないか、やっぱりそこから入っていただかないと。図上訓練であったり、いろいろしていただいて、提案していただいているんですけど、やはりうちらでも年に1回、防災されても、うちの近所の人は何か音鳴ってるけど何やねんやろうぐらいで。やはり動員がかからずに、皆さんが1人でも参加できるような防災を考えていただければありがたいなと思いますので、よろしくお願いいたします。

○久木議長 これは秋山代理、はい。

○秋山地域活動支援課長代理 12地域それぞれでいろいろと内容も考えていただ

きながら、そこに区役所と一緒に取組みをさせていただいてるところなんですけれども、昨年度、やっと12地域すべてで震災訓練ができたところでございますけれども、継続していろいろと実施をしていただける地域におかれましては、今年度また新たに、小学校に行ってみんなで水消火器をしてとかというだけが震災訓練じゃないよねという言葉も出てきておりまして、講演会とか新しい取組みをしたいというところも出てきております。

また、一方、別の地域におかれましては、これまで小学校に集まってから主な震災にかかわる訓練をされていたところを、そこに行くまでを重視をされまして、それぞれの町会が自分のところで何が必要か、要援護者、安否確認をしながらどういうふうにもその方を救助して小学校まで運ぶかをイメージするとか、そういうような取組みも出てきております。できるだけ幅広く、多くの方に地域の訓練に参加していただきたいというのは、区役所としても思っておりますので、また各震災訓練の実施の段階からご相談にも乗らせていただいておりますので、またいろいろとそこは提案、ご意見、案を出しながら一緒に考えていきたいと思っています。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

もう時間も迫ってきております。最後のご意見になろうかなというふうに思うんですけど、木村委員、何かございませんか。

○木村委員 先ほどもちょっと大原さんから防犯カメラの件で話が出ていたんですけど、榎本地域、防犯カメラは効果があるということで一生懸命つけていて、警察がここで何かあったと言うた場合、鍵貸してちょうだいということで来るんですけどね。一番の大きな問題になってるのが、データを持って帰ってちゃんと指し込んでもらわんことには、次が回ってませんねん。これがね、結構多かったです。だから全然映ってないやんかということなんかがね、最近ちょこちょこありましてね。メーカーさんに見てもらおうと、もう期限過ぎてから修理代金もらいますよということになりますんで。行って何でもなかったとしても人件費はもらいますよということになります

すで。こないだもちょっとあったんですけども、それも請求されたんですけど。そやからもうええわというわけにはいきませんのでね、ちゃんとそれ見てもらって、動くようにしているんですけども。

だから我々は、ここがもう一番ちょっとぐあい悪いところやから設置しようということとで設置して、警察から確認の依頼があればちゃんとお貸しするということなんで。ちゃんと映ってないというのがやっぱりぐあい悪いですね。故障じゃないんです。警察も利用するんだから、もうちょっとちゃんとね、やってほしいなと思います。はい、すみません。

○久木議長 はい、ありがとうございます。

木村委員のほうからありましたんで、また連絡会等機会を捉えてお願いします。

あと、もう時間が来ました。一応、先ほど山下副議長からもお話ありました。また宮田委員のほうからもあったんですが、区の指針として、到達点というのはしっかりとらえていただいているのかなと思うんです。

ただ、そこに至る運用の仕方が、ちょっとまだマクロ化し過ぎかな。もうちょっと具体でとらえてやってもらわんと、わかりにくいところがあるのかな。

例えば、福祉とか防災とか捉えますと、確かに防災も先ほど申しましたように、やっぱり各連合、それぞれ各地域捉え方違います。ですから具体的に、この地域は今年はこちらまでいこうねとか、3年後にこうしましょうねとかという、具体が必要なんかな。特に、福祉についても、どうも福祉の基本というのは、今なってる福祉の人を助けるだけの目的ではなくて、これからならないように、区としてどういうふうに対応していくか。今、元気な人をどうやって助けていくか、そこら辺も福祉の中に取り組んでいただきたいとか、そこら辺をやっぱり到達点として、そこを目標とするロードマップをつくっていただければ、よりわかりやすいかなというふうに思います。

ということで、これについてはまたお話し合いさせていただきたいと思いますが、そろそろもう時間もまいっております。

次に移らせていただきたいと思います。今回は、鶴見区役所からも熊本地震応援ということで、職員の方が行かれております。今日はお二人だけなんですけど、河本係長と金森副主幹にご報告していただけるということで、皆さん聞いていただいて、鶴見も直下型の地震というのは非常に危険性があるということです、しっかり参考させていただきたいなというふうに思います。

それでは、河本係長お願いします。

○河本保健福祉課担当係長 貴重な区政会議の時間に、発表させていただくことを幸せに感じています。

今日は、私と保健師が発表させていただきますけれども、区役所からは4名が避難所運営支援に行っており、後ほどご説明させていただきます、保健師業務ということで、保健師1名が参加しております。

それでは、ここからはスライドを使ってご報告させていただきます。

まず、避難所運営につきましてご報告させていただきますが、先に少し地震についての説明をさせていただきます。

平成28年4月14日、午後9時26分、マグニチュード6.5、震度7の地震（前震）が益城町で観測され、これが本震だと思っていたものが、平成28年4月16日（2日後）に、マグニチュード7.3、震度7の地震（本震）が起こりました。この地震の前震で避難していた方は本震を免れましたし、逆に最初の前震が本震だと思って家に帰られていた方の中には、本震が起こったときに大きな被害に遭われた方もおられました。

では、震度7ってどんな地震かというのですが、実際震度というのは7までしかないんです。どんなものか震度表をご覧くださいなのですが、少し細かくなっているんですけど、読み上げますと、耐震性の低い木造建物は傾くものや倒れるものがあるとか、立ってられないような地震であるということが書かれています。今回の二度の地震はどちらも震度7ですけど、実際にはここまでしか震度表というのはいない

です。

ではなぜ、この地震で2回目が本震ということとなり、被害が大きかったのかというと、マグニチュードの違いなんです。マグニチュードは1上がりますと実際の地震のエネルギーが32個分大きくなります。今回、一回目のマグニチュードは6でしたが、本震のほうは7以上ですので、実際には地震の規模でいうと、中地震と大地震というぐらいの違いがあるということなんです。

この写真は熊本城なんですけども、皆さんご存じのように加藤清正が築城し、石垣の武者返しが有名な城で、この城は熊本県民や熊本市民にとってすごく誇りに思っておられるんです。

こちらのスライドのように石垣が崩れたり、柱1本で残ってるような写真がテレビのニュースなどに映ったりとかしていたと思うんですけど、災害前の熊本城というのは、西南戦争のときにかなり焼け崩れ、建てかえられたり、改装されたものなんですけど、当時のままの残っている宇土櫓がありまして、これだけは現存で残っております。

宇土櫓は、西南戦争のときに焼け落ちることなく、当時の技術が今も通用した証として、いわゆる先人が培ってきた技術を今後も引き継ぎ力にして生きていこうというようなことで、県民の方たちはこの櫓が残ったことで、先人への考えとか気持ちとかで元気づけられたと聞いております。

これは益城町のまち並みの動画ですけど、少しだけ流させてもらいたいと思います。

こちらのスライドは、災害派遣されて、益城町の被害が一番ひどいということで、避難所に行くバスの移動途中に、町を見にいったときのものですけれども、やっぱり避難所支援に行った東区と違いまして、道から見てもすごく家が倒壊していて、本当に局所的に大きな地震が起こったんだなということを、このスライドでも見ていただけるのかなと思います。バスの一番後ろ乗ってしまして、携帯電話の動画で撮っ

ていたものでふらふら揺れていて見にくくて申しわけないです。

この辺りが一番ひどかったんです。1階がないでしょう。本当に建物が廃墟になっています。

こちらのスライドでは、実際の避難所の派遣についてのお話になります

大阪市からの派遣期間は4月27日から5月18日ということで、その期間を3回に分けまして、私が行ったのは平成28年5月8日からの1週間でした。ゴールデンウィークということで、ボランティアさんがたくさん入ってきていました。

支援体制は、2交代12時間勤務ということで、消防職員と同じような勤務形態と思うんですけども、実際、我々が宿としていた場所から支援するところまで片道約2時間かかりますので、往復4時間バスの中におりまして、現地で12時間という勤務をしてました。

こちらのスライドは、バスの中ですけど、ここでいつも朝のコンビニ弁当を買って食べまして、道中に避難所での昼ごはんをコンビニで買いまして、帰りはまたバスの中でコンビニ弁当を食べる。3食ずっとコンビニ弁当を食べていました。

理由は何でかというのと、やっぱり現地の方が食料を調達するにあたって、現地近くの店で買い物をすると、僕たちのバスで10人ぐらいいてるんですけど、その分だけでもコンビニのご飯がなくなってしまうということもあって、現地から離れたコンビニで買い物で済ませましょうということになりました。

あと一つは、動画や写真をとってSNSなんかで流してしまうと、やっぱりまだ被災されている人の心の部分がカバーできないので、支援中はSNSなどをしないこととしていましたのであまり写真も撮れていません。その関係もあり、本日のスライド資料もお手元への資料もお渡しできていないんですけども、ご了承いただきたいと思います。

こちらのスライドは、実は瓦屋さんで、「一つ屋根の下の安心を」と書いてあるんですけど、瓦屋さんの屋根が落ちてしまっていて珍しいので写真に撮ってみました。

私が避難所支援に行きました東区はこのあたりなんですけれど、支援の担当地区である東区は政令市長会議をつうじて、大阪と札幌と横浜が担当していました。東区には約50カ所の避難所がありました。そのうち大阪市は9カ所の避難所で、小学校だったり高校だったりいろいろなんですけれども、担当させていただきました。

こちらのスライドは、私が行った東町小学校というところなんですけど、避難所は校舎の北側が自衛隊の官舎、南側が県営住宅、校舎の東側に広い空き地があるようなそういう場所でした。

こちらのスライドは、学校の校舎見取り図なんですけど、校舎なんで図面を手に入れることが難しかったのですが、ごみを出す場所という図面が掲示されていて、玄関に入りますと、こちらのスライドは玄関なんですけど、いきなり校長室なんです。そういう小学校も大阪市内にもあるかと思うんですけど、大阪市内では校長室と職員室と一緒にフロアになっているところが多いんですけど、ここの小学校では1階にいきなり校長室がありました。避難所運営訓練などをすると、よく多目的室に本部を開設するんですけども、こちらの避難所では入口からも近いこともあり、校長室が本部になっていました。

こちらのスライドのように、小学校の校長室の本部はこんな感じですね。被災してから大分落ちついていいますので整頓されていますが、初めに入った時には、歴代校長先生の写真が全てあっち向いたりこっち向いたり、落ちていたりしていました。夜勤のときにその状況を見て、「ちょっと校長先生かわいそうやな」という話になり掛け直しをしました。

校長室を本部にしたことや、施設を管理、運営されている方が教頭先生や校長先生が中心であることが一因かもしれませんが、その方々が中心になって避難所を運営しているような感じでした。実際、熊本市の職員の方も避難所の運営にかかわっておられたんですけどもなかなか手薄で、職員が派遣されても、その職員の方は毎日同じ人がかかわれるわけではなく、いきなり当日の夜に個々の避難所に行きなさいという

ことで従事されている方ばかりでした。

というのも、私が入った東区は、さきほどの益城町のように壊滅的な被災を受けている人も少ないので、従事される職員は昼間には役所の仕事を平常通り行っており、その業務が終わった後に、「今日はあなた当番よ」と言われてきているのが現状でしたし、職員も若い人たちが中心に来るような感じでしたので、学校の方が、管理している施設や物品の保管場所などをよく知っているということもあって、どちらかという避難所の運営を学校が回しているというのが現実でした。

こちらのスライドは、避難所運営の大体のスケジュールなんですけれど、先ほど言いましたように、朝 8 時に前の日に泊まっている職員との引き継ぎがあって、10 時ごろに熊本市職員の内の 1 人が交代され、その後すぐに翌日の配給の数量の報告とがありまして、12 時ごろに炊き出しの配給をします。こちらのスライドはお昼の炊き出しの準備の様子です。

午後 4 時ぐらいに食料の引き取りがありまして、5 時ごろにまた夕食の準備をするといった一日の流れです。

炊き出しや引継ぎ以外には、雨が降って痛んだグラウンドの整備や、学校再開に向けた教室の清掃なんかをやっていました。

こちらのスライドは、毎日次の日の担当職員へ引き継ぐためのホワイトボードで、当日の避難者の数を書いてたんですけど、もうほとんど教室には避難者もいなくなり通常どおりに開設できるように避難所としては閉鎖する準備を進めていましたので、1-1 に 12 人、1-2 に 8 人というような形で少なくなっています。グラウンドと書いているのは車中泊の方なんですけど、人数が教室で 31 で、グラウンド 19 人、集会所と書いてあるのは、先ほど申し上げましたように、南側に県営住宅があるんですけど、それぞれの集会所にも何人か逃げてこられていて、その人たちが学校に炊き出し配給を受け取りにこられる人数が書かれています。配給を受け取りに来られる方は、ボランティアというか、居住者の中の自主防災組織のような方々でした。

それで、「どんなこととしてはるんですか」って言ったら、「町会の副班長やってんねん。班長がやれへんから俺せなしゃあない」と言ってた方が来てはって、毎日毎日食事をみんなのために受け取りにきて、それぞれの集会所に持っていつているような方でした。

その方たちを含めて全部で67人の避難者がおられて、配給83というのは、前の日に83食頼んでいたから83食来るということを書いてあります。

こちらのスライドは、学校東側のいわゆる災害に遭った家屋のがれきというか、そういうものを積んである場所でした。

こちらのスライドは、体育館ですけれど、ここの学校は体育館の屋根が抜けてしまって、体育館に避難できない場所だったので、こちらのスライドのように物資の保管場所として使っておられました。屋根が抜けて、体育館自体が立入禁止になっていました。

こちらのスライドは、ボランティアの方々と一緒にトンボ掛けした後に、車中泊の人がとめる車の駐車場のライン引きをしている様子です。

こちらの避難所は自衛隊が近くにありますので、毎日、自衛隊がトロ箱いっぱい、20キロぐらいの白米を持ってこられまして、これをみんなでおにぎりにしたりとか、ゆかりをかけたりとかいうような形で、皆さんに提供しました。これが大体1日2回ほど来ます。

こちらのスライドは、ボランティアの人と一緒におにぎりをつくっているスライドですけれども、避難所の運営自体は、本来発災してすぐに、避難者の協力によって、応急的な避難所の開設をしていただいて、その後2日から1週間については、展開期と言いまして、長期化する場合の主体として運営していただけるようなルールづくりなどを自主的な防災の組織とともに作っていつて、発災後1週間くらいたってきますと、食料とか、あるいはいろんなニーズ、それから生活上の不安なんかを解決するような感じで、最後は、やっぱり施設を本来の施設として戻す必要があり、将来的に長

期的な受け入れの施設に移転とか、そういう話になってくるんですけど、我々が避難所に行ったときには、もうほぼ終息期に近かったので、発災期とか展開期にお手伝いできなかったのは残念でした。

今回は、5月8日付で避難所を閉鎖しまして、10日から学校開設ということもあったので、引き続きで、代替の拠点避難所になる、市立の総合体育館の方に5月8日から従事しました。

こちらのスライドの建物ですが、鶴見区で例えると鶴見区民センターみたいな建物でした。大体育室アリーナ、中体育室アリーナについては、屋根が落ちて使えなかったもので、ロビーであるとかトレーニング室や武道室みたいなところに、皆さんが避難されておられました。

こちらのスライドは先ほどの建物の2階です。この施設についた時は夜だったものですから、ロビーに段ボール重ねて寝ておられる人がいたりもしましたし、ペットを飼っている人などは、玄関に近いところに段ボールでつくった簡易な区画にペットと一緒に場所を確保しており、ペットを飼っておられる人は、こういうところにしか居られないような状況でした。

実は、熊本市立体育館というのは熊本市の中央区にあります。

我々はもともと東区の避難所支援におりまして、その施設が閉鎖になったので、そこに避難していた方々が、中央区にある拠点避難所（市立体育館）へ移動されてきました。

移動が急に決まったことや、二つの区にまたがる避難所になったことで、どこの場所を誰に割り当てるかということで抽選となりましたが、その時、熊本市が行った割り当てのルールが、2階は東区、1階は中央区というようなことでスタートしてしまいました。それってすごくおかしいことで、実際僕たちが避難者の方へ配給を持っていこうとすると、足の悪い方、あるいは高齢者の方とか病気の方が、わざわざ2階から降りてこないといけない。何でそんなことになるんだろうなとすごく思っていま

した。ここでは、大規模な避難所であるがゆえに地域の自主的な組織がうまく機能しなかったことが原因であると感じました。学校単位なら各地域の方々が様々なことを考えながら、要援護者の部屋をつくられたりとかするんですけど、やっぱりこういう拠点の施設になりますと、そういう自主防災組織が動かないものですから、どうしても行政主導になってしまって、行政も本当はそこまで考えなければならぬいんでしょうけれども、なかなかそうならないという現状があるんだなというふうに思いました。

こちらのスライドは、この施設は実は指定管理者による委託管理になっていますので、館自体は指定管理者がずっと管理をしていていました。

こちらは、僕たちが紙に本部と書いてここを本部にしようと決めたり、まだできてない避難者数の把握だったり、あるいはシャワーの利用開始とかを話しているスライドです。

せっかく使えるシャワーを使っていなかったりしていたので、そういうものをルール付けしてやっていきましょうということを、話しをして決めていきました。

こちらのスライドは、夜徘徊している若い青年がおったんですけど、最初、その人は不審者というか、いわゆるちょっとややこしい方ということで、パトカーが来ていましたが、よくよく聞くとやっぱり心に病を持っておられる方で、これは救急車を呼ばないといけないということで、救急車で運ばれているところです。

これが地元小学校区単位であれば、「地域であの子知ってるで」「おかしい人やないよ」となっていたと思うので、人と人とのつながりや顔のつながりは大事ななと思いました。

避難所の支援を通して思ったのは、やっぱりお互いに協力して譲り合うのが大事であるということ。また、周りへの気配りや生活のルール、役割分担、それから車中泊の避難者とペットや応急救護とかいうことは、これはやっぱり地域の力がないとできないように感じました。

学校のほうでずっと集会所のお世話をしていただいていた方のお話を、先ほどしま

したけれども、集会所にものを配っていた方のお話ですが、その副班長さんが最後の夜に学校に来ておっしゃったのが、災害でなくしたものと得たものということで、「家や財産は失ったけれども、やっぱりつながりとかきずなが生まれて、この災害で得たものは大きいよ」と言っておられました。やっぱり、先人をうやまう気持ちというのも大事だと。さっきの加藤清正じゃないですけど、そういうのも大事だなと。つながりやきずなの大切さとか、災害の教訓を忘れなければ、得たものがそのまま成長していけると感じました。まとめになってしまうかもしれないですけど、私たちにできることは、自宅や家族でできる備えはしっかりしておいてほしい（自助）、そして、できるだけつながりを強めておくこと（共助）、地域とか学校とか役所、あと地元企業など様々なつながりを大切に。最後に大事なのは、やっぱり災害を忘れないことかなと感じました。ちょっと時間もない中であまり上手にしゃべれなかったですけど、ご報告としていただきたいと思います。ありがとうございました。

○久木議長　　続いて、金森副主幹をお願いします。

○金森保健副主幹兼担当係長　　保健福祉課保健活動の保健師の金森です。私は河本係長と違って保健師の立場から、健康面を主にご報告させていただきます。

河本係長は熊本市内のほうに行かれたんですけど、私のほうは西原村ってご存じでしょうか。益城町がここにあって、その隣のところで、結構被害が大きかった西原村に行かせていただきました。阿蘇郡の壊れた阿蘇大橋と熊本市内の間にあるところで、阿蘇の村が本当に近くで、阿蘇もすごい景色がすばらしかったですけども、私は、ちょうど去年の１１月に研修で熊本に行かせていただきまして、今回こんな形で熊本に行くとは思ってもいなくて、いろんな悲惨な景色を見て心を痛めました。

西原村は人口約７，０７０名で高齢化率は２４．４％で、やっぱりちょっとお年寄りが多い町です。世帯数は２，５００ぐらいありまして、益城町の横ですので、もう５７％が全半壊していたような町でした。

西原村は、６カ所の避難所が７，０００人の人口でできてました。そこの６カ所の

避難所に、当初は1, 800人避難されてました。4分の1ぐらいの方は避難所のほうに行かれて、車中泊も結構ありました。西原村は4月14日に最初の地震が起きて、電気は早くからついたんですけど、ガス・水道は、もうしばらく復旧しませんでした、4月の末にやっと水道の復旧、ガスはもうちょっと後だったようです。

西原村の中には、診療所が2カ所と歯医者さんが2カ所ありますが、それも4月の末には何とか時間を短縮しながら先生方が開業を再開してくださったような事態でした。

私は大阪市の公衆衛生チームとしまして、保健師2名と事務職員さんと3名で4泊5日で行かせていただきました。行きましたのは5月10日です。保健師チームは大阪市は地震発生3日目から入りまして、一番に西原村に入らせていただきまして、当初はどこの自治体も入ってませんでした、私が行くころには、もう約1カ月たってましたので、何カ所かの自治体も応援に入っておりました。

西原村の6カ所の避難所のうちに、私は西原村中学校という西原村役場のすぐそばにある中学校に行かせていただきました。避難者は、夜間250名、昼間は30名ほどで、中はこんな感じです。

これ手前が舞台です。奥が入り口とこの手前の右側が入り口で、一番大きな入り口になっており、手前の舞台の上には支援物資がたくさん置かれてました。支援物資が置かれている両際は、片一方のほう子どもたちとかが使える着がえ部屋とか、勉強部屋にしていたりとかして、手づくりで勉強部屋、着がえ中とひっくり返せるようになっているような札をつくって利用したりとか、舞台の反対側が機械室ですけど、そこはここの避難所に、西原村の役場の方が2人常駐されてました。1人は男の方、50代24時間勤務、お1人の女の方は、若い20代の方で昼間日中だけでした。その50代の男の方が、その機械室のものを出して、寝泊まりをして、時々車中泊もされながら、いろいろ支援されてました。

入り口のところのすぐそばには、事務室みたいな体育倉庫がありますが、ものを出

して、そこをスタッフの部屋みたいにつくっていました。スタッフの部屋は絶対必要だと思います。いろんな情報とか、パソコンも置いてました。左奥はおトイレですけど、びっくりするぐらいきれいにされていました。

避難所運営チームというのが、西原村には佐賀県が全部6カ所に4～5人ずつ入っていただきましたので、その方たちがピッカピカにしてくださって、うちのトイレより数段きれいな、本当にピッカピカにされているようなことで、こんなことではもう感染症発生しないだろうというぐらいピッカピカにお掃除を1日何回かしてくださっていました。あとは、入り口のところに消毒やアルコールとか置いたりをしていた避難所でした。

この中を歩きながら健康チェックをしていきます。この体育館には大体夜250名ぐらい避難されて、外から帰ってこられるんですけど、大体体育館左半分がもともとの昔からの村にお住まいの方、右半分が新興住宅地の方、これは自然に分かれたんです。お布団の下には、日赤チームが最初に持ってきた毛布が引かれて、その上に各自がおうちから持ち出されたいろんな色の違うご自分のおうちのものをこうやって引かれて、衣装ケースを持ってきた方もおられるし、ほとんどお荷物がない方もおられるし、そういうふうな形で1区間1家族みたいな形で上手にきれいに並べてられます。

持ってきたものは、いろいろお人によって違いますけど、服を入れるケースを持ってきたおられたり、ほとんど何もない方とかいろいろですけど、大体自然にそういう昔からの村の方、新しい新興住宅の方って、何か自然に分かれて、西原村は6カ所避難所があるんですけど、ちゃんとダンボールで仕切りをきっちりされている避難所もあれば、こうやって何も仕切りがないところがあって、これは避難者の方々が、「うちの体育館はみんな仕切り要らんよね」、「うん要らん要らん」という声かけで仕切りなしでやってはるということで、本当にお隣の方が、「あんた大丈夫か」みたいな形で、声かけあって、すごく仲のよい村の方々でした。

ほんともめ事もほとんどなかったですし、お隣同士声かけ合ってはって、それを私たちに、「あのおばあさんちょっと熱あるみたいやで」という形で教えてくださって、私たち健康チェックに行くような感じのところでした。

私は、保健師としての活動は、4つくらいさせていただきました。1つは、環境整備です。環境整備というのは、村役場の方が2人おられて、お1人の男の方は、教育委員会の方です。その50代の方が24時間詰めておられますけど、私たちが行った1カ月後の時点で、もう既に7キロ痩せておられました。女の方、20代の方は、日中だけで、夜間はおうちに帰られるという方ですけども、避難所のスタッフのお2人の村役場の方には、こうしましょう、ああしましょうということは一切言わないんです。もういっぱいいっぱいなんです。役場の方との連携、お食事の段取り、いろんなことで大変で、ほかから応援に来ているスタッフが自分たちで考えてやっていきます。

それで、そのスタッフがいろんなことを考えながらやる中で、佐賀県のチームとか看護協会とか保健師とか、いろんな職種が入っているんですけども、スタッフで連携して取り組むために、ここの中学校のスタッフで「週に1回大掃除をしましょう」、「毎朝10時はスタッフでミーティングしましょう」ということを自分たちで決めてやっていました。

大掃除するときは、日中お出かけになってお片づけで戻ってきはるので、「明日の朝、大掃除しますから荷物片づけておいてくださいね」って言って、前の日にアナウンスをして、張り紙を張って、お出かけになっておうちの片づけをされる方は、それなりにきれいに整えてくださいますので、あとは私たちがボランティアさんと残っている方々と一緒にシーツを一つ一つ上げていって、ほうきとちりとりではいて、ふき掃除して、そうしたら、中からいっぱいぼろぼろぼろぼろと食べかすとかいろんな出てきました。ペットボトルも古いのが出てきて、これいつのお茶かなと思うようなのをお持ちの高齢者さんがおられて、もう了解得て捨てさせてもらったりとか、そういう大掃除を週に1回してきました。

あと2番目、感染症予防です。ノロウィルスとかインフルエンザですが、ノロウィルスがほかの避難所に出てましたので、先ほどの避難所の中をずっと回って行って声かけをしていきました。あとは、たまたま小学生の子どもさんがおたふく風邪を発症されましたので、おたふくかぜを発症した子どもさんとお母さんは別の隣の役場の空いているお部屋にちょっと移っていただいて、そちらで寝泊まりしていただきました。

また、エコノミークラス症候群の予防として、1日2回ラジオ体操の音楽をかけて、皆さんでしていただきました。あとは弾性ストッキングのはき方の指導ですとか、足指体操とか、足がむくんできておられる方が多いです。その辺ふだんのお食事と違うので、むくみとかいうのが出ますので、むくみのチェックとかビラをお配りして、いろんな啓発をしていきました。あとは、やっぱり熱中症の予防です。5月の中旬で体育館は30度ありましたので、温度計と湿度計を真ん中において、1日3回、今何度ですから注意してくださいという声かけをしていきました。

その辺は、本当に原始的なやり方です。先ほどのお布団の合間を通って行って、一人一人お声をかけながら、健康チェックをしていきました。

あとは、全国各地からさまざまなボランティアさんが来はるんですけど、ボランティアセンターというのが隣にありまして、そのボランティアセンターと役場というのが連携が全然できていないので、ボランティアセンターに私たちが見にいって、今日はこの中学校にこのボランティアさんが入るとわかれば、「今日はマッサージのボランティアさん10時に来ますから必要な方は10時におってくださいね」というのは、私たちが声かけをしないと、ちょっと情報が伝わらないような事態でした。

これは、ここの西原村中学校で支援したスタッフで、左の後ろが佐賀県のチームでよく頑張ってくださって、オレンジのリブスは看護協会の看護師さんが4泊5日でここで寝泊まりをして、主に治療とかケアをしてくださり、青いビブスは保健師で、後はもう1人保健師さんとあと真ん中の女の方は村役場の方で、男の方はこのときに入っていないですけど、こういうスタッフで毎日ミーティングしました。役割の明確

化と毎日のスタッフミーティングというのはすごく大事でした。

これは、日赤が半日かけて組み立てた感染症対応テントです。おたふくかぜの子とかノロウィルスとかインフルエンザが出たら、2家族までここに入れるんですけど、ちょっと一見暑そうに見えるんですが、中はそんなに暑くなくて、2家族が仕切りで入れます。

こういうのは、ここの西原村中学校は、体育館の中にある部屋を全部使ってますので、感染症が出たときに対応できるお部屋がないですし、空気感染というのは換気も必要なので、そういうお部屋があるかどうかというのを、日赤のチームがチェックに回ってはって、「西原村中学校はないからここにこれを組み立てましょう」というような形で、組み立ててくれました。

あとは、地震が起こってから1カ月ぐらいは、村役場の方とかが、自分の知っている八百屋さんとか食堂されている方、いろんな方に声をかけて、自分たちで村役場の方が食事を調達してきはりました。1カ月後ぐらにようやく熊本県のほうから、一括でこうやって、コンビニのおにぎりとお茶とかいうのが出だしたんです。私たちが帰るころに、これは朝ご飯で、1人おにぎり2つにお茶1個。これもずっと毎日です。お昼はパン2個に野菜ジュース1個。夜はお弁当です。そのお弁当を食べていらっしゃるから、見るとほとんど野菜があんまりない。果物もない。お金を持ってきておられる方は近くにコンビニはありますので、買いに行ったりできますけど、日中はお片づけにおうちのほうに行かれますので、残っておられる方は高齢者とかお足の悪い方なので、なかなか野菜不足で便秘になりがちだということら辺がありまして、本当に食事を毎日毎日、ちょっと大変だなと思うんですけど、こういう食事に1カ月後から切りかわっています。

これは、青森県の自衛隊がつくってくださった「ねぶたの湯」というお風呂で、中は結構快適。シャンプー、リンスも全部あって、水道も3つぐらい蛇口があって、洗面器も煮沸消毒、日光消毒してくださっています。これもやっぱりいっせいに入って

いただくんじゃないくて、お身体の不自由な方で介助の要る方が2時半から、あと元気な方は4時からと時間を区切って入って、介助の要る方は看護協会のスタッフとか私たちとか近所の方とか、そういう方が介添えをして先に入っていただくというように形で時間を割り振りしてやっています。

これは、皆さんテレビでよく見る段ボールベッドなんですけど、これ1つで1万8000円します。これは、大人3人で15分くらいで1つ組み立てられます。ただ、これやっぱりこの上にお布団を引かないとかたいですし、ちょっとこれを置くのに場所が要りますので、先ほどのお布団敷き詰めた中で、これを置こうと思ったら、「すみません、置いていいですか」と周りの許可を得て、本人さんも希望されたら置けるんですけど、場所がかなり要ります。ので、ここ西原村は、福祉避難所が被災してしまいましたので、近くにある福祉センターみたいなのを1室借りて、そこで福祉避難所にされたようすけれども、先ほどのお布団がいっぱい敷いてあったところからここに移るというのもまた大変なんです。親しい人と別れないといけない。ちょっと足が不自由な方は移ったらいいかないと私ら思うんですけど、「いや、お友達と離れたくないから行きたくない」とかそういうので、ここに移っていただくのも、かなりいろいろお声かけをして、ようやく移っていただくという形で、いろいろ調整があるのが実情です。そのあたりは、あそこの体育館にこれが置ければいいんですけど、なかなかスペース的に無理でその辺りの調整がなかなか大変でした。

あとこれは医療者スタッフで、DMAT、精神のチーム、DPAT、保健医師チーム、看護協会、歯科医師会さん、さまざまなチームが西原村に入りましたので、朝の9時と夕方の5時には、ここにきっちり集まってミーティングをして、情報交換します。「ノロがはやってきましたよ」、「おたふくかぜがはやってましたよ」、「気をつけましょうね」というのを情報交換して、昨日あったことを報告し合って、健康チェックをしていくのを1日2回ミーティングしました。

あと、この辺は手づくりの、今の医療スタッフのミーティングのこれ全部手書きで

すけども、このときは5カ所の避難所になりましたので、今日は歯科医師さんが11時に来るとかいうのを手書きにして、これを私たちが携帯で撮って、それを皆さんに情報として提供していったという感じです。

これは、ボランティアセンターのボランティアさん、ちょっと小さい字で見えないかもしれませんが、博多のレスキュー隊、マッサージ会、看護師さん、アロマさんとか、爪切りのボランティアとかいっぱい書いてあります。ですけど、これは全国各地からのボランティアさんで、ボランティアビューローみたいなところが集めてされてますが、その情報がないので、西原中は、「ここに来るボランティアさん誰かなあ。ああ、この人とこの人や」と把握して、また情報提供するという、そういうふうな感じです。

これは鹿児島のチーム、豚丼を配っていただきました。久しぶりの温かい食べ物で、すごく喜ばれて、この背中に見えている高齢の女性、息子さん夫婦とお住まいやっただんですけど、今回被災されて、息子さん夫婦は毎日おうちに帰られて、ご自宅の修理とかお掃除をされているので、このお母さんがお1人で残って、避難所で「私は残らなしゃあないねん、邪魔やからな」とか言いながら、毎日体操したり参加してくださっています。それで、「今日の体調どうですか。何々さん」って言ったら、「オーケーや」とかいう感じで答えてくださるユニークな方で、でもすごく足もむくんでいましたし、ちょっと血圧も高くなってこられたので、次のチームに引き継ぎました。

これは、最後ですけど、かき氷のボランティアさんで、子どもたちが喜んでいます。先ほど体育館で、子どもたちももちろん寝泊まりするんですけど、子どもたちって修学旅行気分なんです。修学旅行気分だと睡眠不足になります。みんなゲームは持ってきてるんです。ゲームをして、3食食べて動かない。学校再開したのが5月の中旬です。ゲームをして、3食食べて、それで3時にカップラーメン食べて、ふだんより規則正しい生活が崩れてきてるんです。だから、みんな友達とゲームして、夜は友達と寝るというようなリズムで、どんどん生活リズムが悪化してきたので、村の役場

の男の方が、ちょっと厳しいんですけど、命令的に「自分の家族の横で寝なさい」って指示してくれはったんです。そこからは、夜は自分の家族のところでおとなしく寝るようになったようで、子どもたちはちょっと旅行気分なところもあったりします。心に傷はあるんですけど、友達と寝れる、ゲームができるということで、私たちが行くと、いつもゲームをしてお菓子を食べてというところで、子どもたちに悪い生活リズムを整えていただくために、支援物資からお菓子も大分引きました。余計な食べ物は、もう自由にとるというのはやめてもらう意味で、整理をしていきました。だからその辺は、支援物資も6カ所の避難所でも、何かお菓子屋さんのようにお菓子が膨大に置いてあるところと、ここみたいにちょっと整理して取っているところと、避難所によっても全然、支援スタッフも考え方で違いがありました。

こんな感じで、なるべく日常の生活に戻そうというスローガンで、ここ中学校はやってきましたけど、やっぱり一番の課題は、支援者の支援が必要ということです。西原村の保健師さんもお1人痩せてはりましたし、発災してから3カ月ぐらい休みがないんです。村役場の職員は60人しかいないんです。自分の休みが来るのが7月だと言っておられました。その間、土日ずっと出ずっぱりで、だから痩せてきはりましたし、休んでくださいって言ってもなかなかそれが難しいんで、支援者の支援も課題だなということを痛感して帰ってきました。

以上です。ありがとうございました。

○久木議長 ありがとうございました。改めて熊本の悲惨さ、そして現地の人たちがどれだけご苦労されておられるか、大変よくわかりました。河本係長、金森副主幹、改めてお礼を申し上げます。身体だけではなくて精神的にも大変だったと思います。

また、ぜひ鶴見区の発展にご協力いただいてやっていただきたいというふうに思います。どうもありがとうございました。

今、どなたかこれだけ聞いておきたいということがありましたら。

よろしいでしょうか。それでは、区役所のほうからは、このようにもう既に熊本支

援に実際に行かれておるということで、我々鶴見区のほうも、区が一丸となって、やっぱり何かしようやないかということでいろいろ企画もしております。

鶴見区地域振興会の会長である西田委員から、ちょっとその辺りのことをご紹介いただいたらというふうに思います。

○西田委員 それでは、議長のほうからご紹介いただきました、私、区の会長の西田と申します。よろしくお願いします。

鶴見区といたしまして、本年度、鶴見区チャリティ盆踊り大会ということを企画させていただきました。既に皆さん方のお手元にもございます「広報つるみ8月号」、これにも載せてもらっておりますし、皆様方には、その点ご承知のことと思います。

何分にも、ただいま鶴見区12連合の盆踊り大会が始まっておりますけれども、もう既に11連合の盆踊り大会が終わりまして、これは、非常に皆さん方がご承知のように、地域の皆様方がいろんなつながり、きずなを持って、この地域を大事に、また皆さん方地域の住民の親睦等を図るための盆踊りではないかと思います。そういう意味では、これは区として、とりあえず本年度、今申しましたように、復興の糧をチャレンジという形の中で大会を行います。

また、地域活動協議会の12連合の我々全員がこれに賛同し、また協力をして、この大会を行うということでございますので、いろんな形で地域の皆様方には、ご迷惑、またご協力のほどをお願いしながらやっていくということで、また日時につきましては8月20日の土曜日、それから21日の日曜日とこの2日間でございます。詳細につきましては皆様方周知等々で見ていただきまして、ご承知のとおりでございます。

また、この復興につきましても、やはり、盆踊りの当日に皆さん方のほうから、義援金といたしまして、いろいろと皆さん方にはご迷惑かけますけれども、その売り上げ等々におきましても、一部義援金ということで、熊本のほうに送るというか、後ほど持っていこうというふうに思っております。

なお、ご承知のとおり、20日は吉村市長にも来ていただくということでございま

す。

また、熊本の物産展ということで、当然のことながら、熊本のくまモンも来るようになっておりまして、大々的に熊本市へぜひとも行こうというような趣旨でございますので、どうか皆さん方、20日、21日の盆踊り大会には皆さんがそろって来ていただきまして、復興のために頑張ろうという趣旨でございますので、どうかよろしくご理解いただきまして、これに賛同していただいて、よろしく私のほうから皆さん方をお願い申し上げます。これからも12連合全員が、やはり連合町会長といたしましても、全員が協議し合ってやっていく、鶴見区のためにというたら大げさになりますけれども、皆さんとともに頑張るやろうというのが我々の趣旨でございますので、どうか今後ともよろしくご理解いただきまして、ご支援のほうをお願い申し上げたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○久木議長 西田会長ありがとうございます。お気持ちは伝わったかと思えますけれど、鶴見区は、やっぱり皆さんの一人一人のお力で、そうした義援金もひっくるめ、あるいは、当日くまモンも来てもらう、あるいは鶴見区のつるりっぷも参加してもらって、そうしたエールをビデオか何かに撮って、またお金だけでなく気持ちも送っていければなというふうに考えております。ぜひご協力をお願いいたします。

それでは、時間が迫ってまいりました。この辺で、一応議題としてはほぼこれで終了させていただきました。

本日は、市会議員の先生にもお見えいただいております。土岐先生はちょっと所要がありまして先にお帰りになりましたが、大橋先生、一言お願いいたします。

○大橋市会議員 皆さんお疲れさまでした。最後にすみません。こういう場を与えていただきましてありがとうございます。

この会議の場で、前回の佐藤委員もおられたときに、鶴見緑地やっぱりもっと魅力向上していこうよというふうな話をよくなさってました。その中で、私たまたま大阪

市のほうで機会をいただきまして、今年の予算で河村区長に大阪市役所に出向いていただきまして、討論をさせていただきました。その中で、今、大阪市のほうで、3つ大きな公園が、この鶴見緑地も踏まえて、大阪城とセレッソ（※長居）というところがあるんですけども、この中で、大阪市の鶴見緑地が一番大きい公園です。その中で、予算をつけても大き過ぎて透明性がなかなか見えてこないというか、きっちりと行政のほうも働いていただいているんですけども、やっぱり大阪市のほうで考えてしまうと、大きく考えてしまうので、区民の意見がなかなか入らないということもありましたので、ちょっと区長に大阪市役所のほうに来ていただいて、その中で建設局さんと区長と私と交えて、今後は鶴見区の区民の皆さんの意見をきっちり反映できるような公園組織づくりをしていきたいと思います。その中で、もちろん指定管理さんに今入っていただいていますので、指定管理さんにきっちり伝えていく。その中で、民間と行政が一体となってやっていく。皆さんの意見をきっちり進めていくということを進めていますので、ちょっと報告させていただきたいと思います。

まず、区長が前段として、今期働いていただいていると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。すみません、今日の議題の中で、いろいろちょっと思う節もあったので、あれなんですけども、隣の城東区のホンダ先生とちょっとお話しする機会がありまして、この区政会議の中で、なかなか大阪市24区それぞれ色ありますので、区政会議の主体も変わってきているなという話になったんですけども、そもそも平成23年7月から区政会議がスタートしました。その中で、そのときはもう別に統一感もなく、各区でお願いしますという話だったんですけども、橋下市長がその当時就任されて、平成25年6月1日から条例化にして、統一的な見解を、区政のニアイズベターを求めていきたいと思いますというのがスタートでございます。

その中で、今日もやっぱりなかなか地域と区と、これ難しいと思うんですけども、やはり、区政運営をまずきっちり行った上で、皆さん意見出していただいて、それを今後、役所の皆さんが、各地域活動協議会ないしNPO法人さんに伝えていってもら

った上で、区政として考えていますよということをちょっともう一回言っていたきたいなというふうに私は思いましたんで、お願いしたいと思います。

それと、熊本の震災のことがあったんですけども、ちょうど私行けなかったんですけども、隣の守口市議会のある仲のいい先生3名が、6月に益城町のほうにボランティアセンターに行かれて、活動の報告をちょっと聞いたんですけども、一番問題となったのは、ボランティアセンターとかそういう避難場所に行けば、職員がいてるんです。そこで、指揮・命令していただいて、働きやすい場所をつくっていただけると、ボランティアさんが。でも、いざ現地に行って、その日は、ブロック150個を敷地から出さなアカんと、塀がつぶれたんで、高齢者の方がお願いしますという仕事を3名のボランティアの方が、もちろん市会議員というのを隠して行かはったんですけども、仕事をしたんですけども、向かいの人からクレームが出て、「ここに置いてもろたら困る」と。でも行政からしたら、「ここに置いてください」という指示を受けて彼らは行ってるんですけども、そういうトラブルがちょっとあったりとか、なかなか意思の疎通が伝わらないというのが現状でした。やはり、そういうボランティアセンターとか集会とか行けば、意思疎通はとれるんですけども、いざ一步町なかに出ると、意思がとれないというのが現状でしたんで、またこの辺も大阪市のほうで、私やっていきたいと思いますんで、今後ともお願いしたいと思います。

あとは、今、西田会長がおっしゃったみたいに、やはり熊本に対して、同じ政令市として、これはやっていかないといけないと思っていますんで、私も微力ですけども、一生懸命頑張りますんで、お願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

○久木議長 大橋先生、ありがとうございます。

それでは本日、長時間にわたりました。終わる前に、河村区長からごあいさついただいて終了いたしたいと思います。

区長、お願いします。

○河村区長 皆さん、長時間ありがとうございました。

今日は2部構成のようなことで、ちょっといつもとは趣向を変えて開催させていただきましたけれども、いろいろご意見ございました。この間、僕が区政会議に参加させていただいて思うのは、やっぱり皆さんのこうした鶴見区全体のためにこうしようと、こうしたらいいんじゃないかというご意見を、やっぱり僕らも聞きっ放しにするのではなくて、また、皆さんもちょっと言い方悪いですけど、言いつ放しではなく、お互いに言ったことがどう施策に反映されていくのかと、やっぱりきっちりチェック、進行管理をしていくことが大事かなというふうに思っています。

また、皆さんからこういうご意見があったというのも、やっぱりこの区政会議に参加されていないほかの区民の方にも知っていただく。もちろんホームページとかでは、議事録とか資料を出してはいますけれども、それだけではなくて、本当にここでの活発な議論を、ほかの方にも多く知っていただくということが大事かなと。

それをまた知っていただくことによって、この議論も活発になるというふうに思いますので、その辺のことを今後、いろんな工夫もしながら取り組んでいきたいなというふうに思っております。

まだ、平成28年度半分以上残ってますんで、またいろんな取組みにご意見を生かしていきたいというふうに思います。今日は長時間ありがとうございました。

○久木議長 ありがとうございました。

最後になりますけど、区役所のほうから事務連絡ございましたら。

○西野区政企画担当課長 本日はありがとうございました。

次回の区政会議の予定でございますが、9月に部会を開催いたしまして、平成29年度の運営方針の方向性についてご意見を賜りたいと考えております。

日程につきましては、改めてご連絡の上、調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務連絡は以上でございます。本日はありがとうございました。

○久木議長 それでは、次回開催は一応9月ということで、皆さんまたご協力お願

いします。

それでは、本日の鶴見区政会議全体会をこれで閉会いたしたいと思います。最後まで熱心に議論していただき、本当にありがとうございました。帰りも気をつけてお帰りください。ありがとうございます。

閉会 21時01分